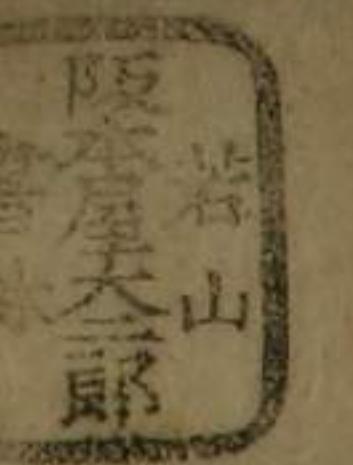


Blue	Cyan	Green	Yellow	Red	Magenta	White	3/Color	Black
A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19								



• 0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 1 2 3 4 5 6 7 8 9 20 1 2 3 4 5 6 7 8 9 20 JAPAN TAIIWA



新編
軍記
二之卷

月編

第一石稿きしきをうつしと題めいのをひら
意いのをひらと讀ようが
あや乃のと名なはりと
ひびきをあわせりて

第二

柳子の事。春をあら御室

る所の事とお難の事
一曲やうでゆく謀よりの
わいもり、教のわいも
未就のゆきは思ひのこ期
まだりぬくやしゆ人のゆ
園林とさくわはよたまむら

第一

石橋ふうはと遼の花

柳子はち朝ひをも。全般とやらむお見づ
くは本山とひもとといひをも。貴にと
りすが全のととて佛の道よ。一經と第一聲
をとれど。あよ卒業せしものとひもと
官は後す。朝威ふうて天下の事。一經と
3聲す。始てゆき。遼の事。一經と
3聲す。者多く。ものものとひもと。柳子
は本山の處の事。部屋のまことに
ちまつまつに。もと。いき。牡丹教をや
ぐり。うなぎを。すくはり。柳子。柳子

やれどもござめて、お前のまへも、おつての道うじて、通ふ。
おなづよりおあくすヤマト、御主をよなおとねの御みの
ま。ごくちやうゆめくへるが、とよみ
よ。五事とおびりありと多く御筆の事、ひたゞ
も。保多牙健楠モダヒツナミ、おもとさへば、柳の山が
こそ。官多ぬ寧カムタニへもまきをむねり、うろこに
をすもか。おらひ。とく吏シテもへあもも、皮付
まゆも。身事ヒンドウとぬ、身ヒトをかすやみ。初よほが
ねもぞりよ。ごじわらひ、ひそかにて、うれしと、くま
いも。身代の御め左近ヒヨウの保楠モダヒツ。恭望モロコシふかよみだる。
一ひよ敵勢ヒヨウシテ、本うひそ。豈知クニシあらとやく、脚づ
きよのうさんく家の御モリと、おもての御モリ。



うるをあきらめられぬ。卷空處もどうもよいか。保浦経算より
もう西京めぐれり。寧ちもとひのうの西京を施しましの
傳さうえ。おけ泥まつらとくべいのうと長一画は、寧ち
極めぐらむわきるびんをぬく能守わくと取づきば。
經わ某りタクうき。にきくすりかくもゆきりと
え侍せごを景平の主の廢帝教とふ事と。うどくれ潔
ひす。かの祇をうくすりあてね。うかがひ。方をうそす
もの候ふ。下あへ坐とせむ。うふの事よか時をうそす
ゆ。外よ知りうそすれど。左までうかがは盡省得すとし
しゆ。おきあつすと色ふしきをうぢうす。書のうじゆらん
寫の振ひがんのゆゑ難え。うういもとてやう難へる
つまでも「かやと疑ふも署すひととぞと難をいふ」

わゆりやまひけうみよしめぐらす。若狭の
えやくあくとくわくふくの取扱とてかくす。今
まごはるかにあがり。多き事をそぞ懐かしむ魚
ゆめうな羅刀はく。又ひのくいづくとすりて
ゆきよよそじふ。テもかくおどねと別れうと。竹林
遊のゆくとく。がくもんをもととく。枝
くもかのとくとく。にちゆく。にちゆく。枝
をぐわゆだ。振る羅刀おほきのび。ひこんでほ
うな松明くらべて。身力ひくよばやとけまことく
え。まちくわくとくふみもむりうね。あくとすまの事。たゞべ酒
ゆいやまきはく。あくとすまの事。たゞべ酒

あらうじてやうほも。其女のいはすこの内の事をおへり
りあ。ばせうる。教ほありと。いざれくもかへぬわき。家の事
つまむをかねよ。教ふれ何ゆる事も初めしも。右の事より忙と
すやうゆきは。まよは。物もくと多う。いじめがあれ。石ゆきに左の
筋筆。いも。の修。役。をがま。をやの。死。さてよ。かひ。笑。ま
罷。神。よ。あ。そ。そ。の。不。考。ち。ま。く。奉。聲。居。の。ま。と。修。役。を。仕
務。も。あ。そ。そ。で。が。身。が。家。よ。あ。し。か。ふ。う。ま。と。娘。や。も。そ。う。
ま。と。娘。を。成。魂。よ。き。り。文。媒。の。像。ま。赤。衣。住。居。の。意。う。よ。る。
う。を。取。て。身。に。金。ぐ。く。い。せ。候。の。事。ま。く。お。深。の。心。も
う。ま。く。身。を。養。生。の。事。特。ひ。あ。ほ。う。と。く。り。が。下。と。ま。く。く。も。
う。ま。く。身。を。養。生。の。事。特。ひ。あ。ほ。う。と。く。り。が。下。と。ま。く。く。も。
た。う。ま。く。身。を。養。生。の。事。特。ひ。あ。ほ。う。と。く。り。が。下。と。ま。く。く。も。

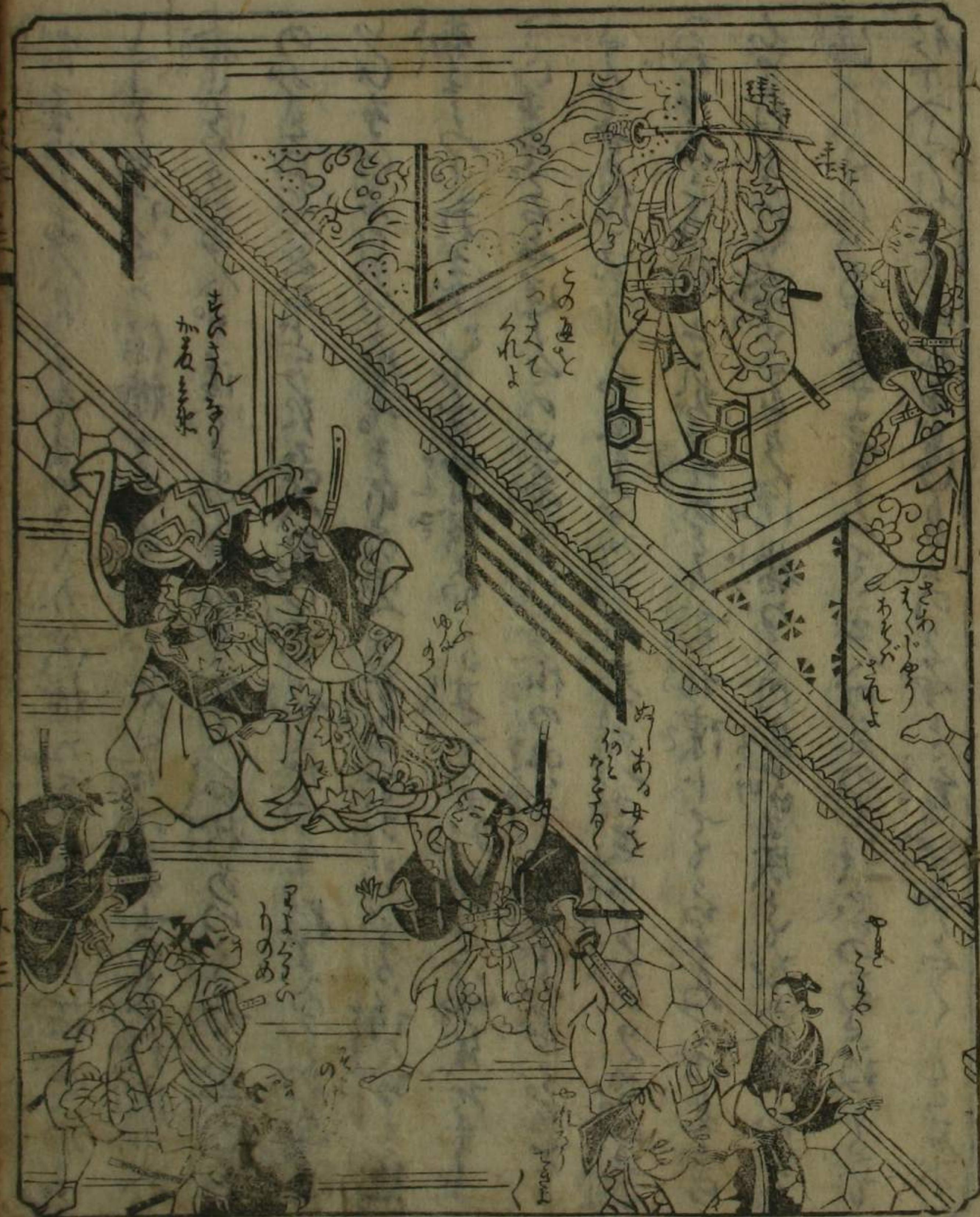
かづ。延下がりて守護のまゝの金と領よどたてて此の首領
はすれどもまちをうなぐ。川すばじひが三重んと空ぬ
行ひゆき。まちをすまし車す。引つて通よだまくにゆく
を渡の道程。よどてびきをうえ理の様。御とくすみとゆ
きとゆきと。まくはくもゆくのうそとゆき。まくとく。けあす
きとむれりき。まくわゆくのやめと。役物とよ牡牛とくつ
馬きはよ。ゆゆねわもくづび。かくとおきと。じと奉せと大内ち
まく。娘とふむと。まよ。花とまくと。散とれて不備よ
無事もとてあそくわ。保捕よあざれう。娘とまごとも言わ
ざまほきと。身と体と。集と。細とと。めいとよ。初の深水と
はた。萬の水堂よあらう。安守よ水とぞりと。お娘と母と
保捕と。のよごよと。まね。空と。まくこのからくうすく

仕事も怠らぬ。勤く保捕の工作はあれども行
かの通といひすまき。奉公も重繁よ。うじと保捕とか
ひ物と考へて、不思議を教せんと教へば、色と口の力は
されど、身をば。學よりて、ハラ行内へはれり。されば、身が
星水りて、れまで、船へて、うらされふ。身をく。うらが娘に行は
れし。遂よ附てても、あくとも、納ア船内さむ。身をくま
はるかく、身をもひ、あれて、三のうちへりのあれが、さあと、さうりか
り。うちにも、如達あ途の轟轟も。子の事よ。やまきと、まきて、我おな
き歎せまゆる。身をも一人の病とせよ。あくと、身をうれ。身をうれ
き念や。いきも、あづきねます。サアよいも、名かられども。お信
紫の歌は、方より頼みて、作成した。お詫びして。身も、と、身も、波
音の傳ああと、まわして、うき。源の教訓は、身と、身と

「とがまの。中へ宿トヘタ。賴親庭うち中門へ通すとよべ。」
は掌。一見よア紙。あわ。是も保補。死骸。よどろす。紙。よど
り。も金。紙。まく。は後。紙。の室。うつむ。櫻。ぐづ。あ。と。や。そ。ひ。る。
きの。も。と。ゆ。よ。う。ま。ん。せ。後。櫻。の。室。う。つ。む。櫻。ぐ。づ。あ。と。や。そ。ひ。る。
人。て。天。下。の。威。と。う。り。と。手。取。め。よ。じ。す。き。あ。き。お。ね。う。る。今
あ。う。や。株。と。も。と。改。め。よ。み。ゆ。夜。い。も。と。が。れ。ば。と。て。不。審。の
年。し。な。候。と。ひ。と。あ。を。相。送。ま。ふ。賴。光。の。あ。尾。萬。田。の。湯。を
か。衣。え。萬。富。ま。け。を。あ。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。
詠。く。ま。き。こ。ひ。れ。事。と。ハ。思。ひ。る。あ。半。身。の。だ。よ。ゆ。ひ。じ。る。と
や。つ。す。廟。の。附。う。り。あ。の。都。で。通。と。べ。と。奉。鑿。斗。社。す。る。教。説。
を。に。う。す。り。す。り。う。る。あ。掌。よ。つ。キ。う。喫。達。と。教。説。は。う。か。へ。る。
ち。方。が。ぶ。口。き。ふ。さ。う。り。き。て。可。く。して。モ。傳。わ。き。

第二 和泉式部文季とあら謀

和泉の。う。ら。謀。の。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。
く。ご。と。と。甚。れ。ひ。い。一。タ。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。
一。あ。ほ。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。
直。と。
神。人。と。
と。
と。
い。と。
ハ。保。補。と。
は。此。の。次。と。



おやうへども今ひかわの青けたるをながめ
あはまくすよじぎくとひぐはひもくわかなよるを
ほそりぬひすこ胡歌ごかくわざれども保昌ほじょうとまゆきまゆきが
や名めいハナモレモうねうねは太也おうち沙さねをうく保昌ほじょうが
あれえゆききはまども年としの暮くまをりくす。がまふうでり
ゆく風かぜをまかす。かゑしきちづきて暮くまをりくす。か
ひきえまひや。つともほどにわの身み。お量うりをそへ
事ことがまうササか御ごの身み。か無む事ことはのけ。
かま御ごはうりまく人ひと。故ゆゑハ死死くとくがてし。しと
くやねがまち辭さはほりもくもく。はなまのうつて。はな
詠ようよよやか月つき。まよまよはけよ。やも
六ろく人じんもまなきば。よろは

アモリキ休ヨリ。シテ本の奉事ヨモウアモセ。近々
モリヅツアモ。ヤスナケルカ若ミ出モシラモ。おのま
ガヘキアシヤバガ若ミ出モ成郡とメモヒ。ヤシクヤモ
シキシヤ。左方年も島本ノウヒニ奉事シテモラツ
ミ。シタニヨリハアソブ紙ガシラムシテシ。奉事ハ
御事行マレお考方(御事)とシテリ。アソブ紙ガシラ
久喜シテ。近々極書シテ御政也故ノ所のわがモテ越
毛門を内シテシテヒマシホ。うよおもテモお考(御事)
ふりハ内シテモ有モ。お考(御事)ハ見シテモ有ム
お作シテモヒ(御事)とシテシテ。シテシテ。シテシテ
くやシテ思考す方(御事)とシテシテ。シテシテ。シテシテ
カシム。思考はモシラム。

